

## ヨハネの福音書 第8章 12節

「イエスは彼らに語って言った。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみのなかを歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』」

厚い雲が覆う初春、その下には満開の桜が見えます。青空に映える桜も見事だが、曇天下の花もなにか落ち着いた感じでよい。それに、突然雲間から一筋の光が射すこともあります。この思いがけない、ドラマチックな光景も捨てたものではありません。しかし、今日はほとんどの時間帯で雲が覆う日となっています。

雲のさらに上には陽光が輝いていることは知っています。雲間から射しこんだ光をしっているからです。たとえ照らしてはいなくても太陽は健在です。たとえ何かによって光が遮られ、届いていなくても輝いています。

ただ、この光は遮られ、また時々輝くものではありません。外から照らされる光ではありません。そうではなく、光のお方との関係で輝く光です。世の光なるお方に従うなら、光のなかに歩みます。闇のなかを歩むことはありません。たとえ周りが闇で覆われたとしても、決して闇のなかを歩んではないということです。従い歩む者のうちに光を持つからです。いのちの光を持つからです。わたしといわれるお方がうちに生きられるからです。